

かわじまウオッチング

第 1 号
平成26年11月15日



かわじま地域探訪倶楽部

新井孝政 急式米子
鈴木宗一 花木登茂子
榎本角雄 山田芳子

わが町のベストショットを探してみましょう

埼玉の穀倉地帯である川島町は、同時に河川に囲まれ、用水路が縦横に走る輪中の里でもあります。この輪中の里である川島の自然をながめてみるといろいろな特徴があり、人々の知恵が生かされてきたことがわかってきます。



これは、越辺川彼岸、戸守のヒガンバナの群生です。ヒガンバナは、美しい景観を提供するとともに、堤防をモグラの被害から守る役目も担っています。

皆さんは、お寺の墓の周りに、ヒガンバナが昔から多いのはどうしてなのか、御存知でしょうか。

死者を土葬した昔は、野犬などに掘り返される心配があり、それを防ぐために、ヒガンバナを植えたのだそうです。また、ヒガンバナの鱗茎にはリコリンという猛毒が含まれているそうですが、水によくさらしてデンプンを取り、飢饉の際に、役立てたという記録もあるそうで。ヒガンバナは、稲作とともに、大陸から入ってきたものです。

堤防の上を散策してみると、川の歴史を垣間見ることができます。曲がりくねった旧河川の流れを真っ直ぐにして、流れをスムーズにした改修跡を見ることができます。これは、川島町の中にできた坂戸市の飛び地というわけです。



これは、町立図書館資料からの川の流路改修を示す写真です。

宅地開発で土壌が掘り起こされた都内では、セイヨウタンポポに席卷されていますが、川島町には、都内では見つけにくくなった、カントウタンポポを、多く見ることができます。また、出丸中郷付近の三ツ又沼ビオトープの散策路では、絶滅危惧種に指定されているタコノアシをはじめとする、珍しい植物を町のあちこちでたくさん見ることができます。



これは、出丸中郷の三ツ又沼ビオトープの写真です。これらの風景も、川島が自然に恵まれている証でもありますね。川島には、堤防づくりに汗を流し、地域を守ってきた人々の努力の跡や、川島町の人々の農業にかかわる地域の伝統芸能など、地域に生きた人々の歩みを、身近に見ることができます。



(やすらぎの郷・桜づつみ)



(越辺川河岸・白鳥飛来地)



(三ツ又沼ビオトープ)



(八幡底面グラウンド・メタセコイア)



(三ツ又沼ビオトープ・観察コース)



(遠山記念館入口)

鈴木 宗一 記

平成の森公園散歩

休日平成の森公園にいきました。公園は家族連れが多く、グラウンドでは、サッカーや野球をやっていました。「ちびっこ広場」では大型遊具を始め多く遊べる道具があり、子供たちが大きな声を出して、元気よく遊んでいました。



(水と時の広場)



(バラの小径)

「水と時の広場」時の塔が聳え、メロディーが利用者に時を知らせます。池にはハスの花が咲き、その隣で、親子が鮎釣りを楽しんでいます。また町の花。ハナショウブも植えられています。

「バラの小径」日本一のバラのトンネルが全長33.5メートル、53種類、427本のバラが多彩な花を咲かせ、長い期間、観賞することが出来ます。アスレチックコーナーもあり、体力に合わせて好きな遊具を楽しめます。僕も吊り輪を利用して、逆上がりを三回やりました。一寸怖かったけど、元気をもらいました。勇気を出してやることは、楽しいです。

福本 角雄 記



遠山邸のご案内



銘木と職人技術の博物館

概要

川島町にある遠山邸は日興証券の創設者遠山元一氏が生家再興のため昭和 11 年建設。今年の夏 BS 朝日で百年名家という番組で放映されました。初めての方は解説ボランティアの案内があります。詳しくはホームページで確認して、是非利用してください。以下簡単に記しますので遠山邸を見学の際は参考にして下さい。また、遠山邸研究会では建築関係の専門家(建築家、大工、左官、木材)講演を開催していますので参加されてはいかがでしょうか。

東棟の銘木と技巧

檼けやきの珠たまもく奎：長屋門扉、表玄関天井板

鞍馬石：表玄関靴脱ぎ石

人じん研とぎ：内玄関 左官技巧

大阪格子：居間入口

薩摩杉さつまのきの珠たまもく奎：居間の天井

檼けやき大柱：大黒柱と恵比寿柱

網代あじろ天井てんじょう：居間

中棟の銘木と技巧

書院造り：お客様の接待部屋、二階は和洋折衷の洋間

舟底天井：渡り廊下

傘からかさ天井：風呂

客間：書院造り

本霞壁：ガーネットの砂壁

檼けやきの珠たまもく奎の地板：地袋の下板と一枚板

糸いと柱たまきの春日杉：天井板

北山杉天然しぼり丸太：床柱

木曾き檜そひのきの四方しほう柱まさめ目の通し柱

中棟二階：和洋折衷の洋間、朝香野宮殿下が宿泊された

オパール硝子：窓ガラス

西棟の銘木と技巧

数寄屋造り：母親の住まい

竿縁さおのち無し：客間の天井

墨差し天王寺：茶室の錆壁

薩摩杉の極上品：寝室の天井板

蛸壁：寝室の外壁

前田南斎作しゅうみだんの須弥壇：仏間

弁柄べんがらを混ぜて仕上げた紅差し大津磨き：お手洗

以上銘木と技巧で建設された遠山邸です。皆さんも是非訪れて体で味わってください。依頼すれば学芸員の久保木さんが説明してくれるかもしれません。私は今年、9月迄に8回訪れています。



川島町のシンボル ⇨ 平成の森公園

★ 平成の森公園は・・・

町では、昭和 63 年に国が提唱したふるさと創生事業（「自ら考え 自ら行う地域づくり事業」）を実地するのにあたり、広く町民からのアイデアを募集し、公共施設と一体となった、町民の憩いの場を整備することになりました。

この公園は「川島の文化を継承しつつ、風土的伝統を踏襲した総合公園」として、約 8.38 ヘクタールの土地に 3 年の歳月と 25 億円の費用を投じて、平成 8 年に完成したものです。

名称は平成元年に計画されたため、元号を記念して「平成の森公園」と名づけられました。



公園内は・・・

① 水と時の広場



この広場は、町の立地特性を反映し、向りを水路で囲み「川に囲まれた島」川島町を表現しているものです。9/20 日にこの広場に行った所、子供達が四方八方に広がり遊んでいました。午後 3 時に突然噴水が飛び出しましたら、黄色の叫び声が上がりにこども達が水路に入って大喜び、この光景を眺めていましたら、ホットするひと時となりました。

② 多目的広場

町の体育大会、サッカー、野球、民謡等あらゆる野外活動が出来る広場です。NHK の「ラジオ体操」も 2 千人の方々に実施されました。

③ ちびっこ広場

アスレチックコーナーや遊具、そして小川のある場所では子供たちが素足になって歓声をあげていました。

④ ショウブ園と蓮池

ショウブ園は 6 月中旬から 7 月初旬が見頃です。種類は江戸ハナショウブ、伊勢ハナショウブ、肥後ハナショウブの 3 種類です。ショウブとショウブの間には歩行橋があって満開時には、夢の世界に導いてくれます。この日(9 月 20 日)はひと花でも咲いていたらと、一途の期待を秘めて来ましたが、残念ながら枯れ花がこびり付いていて、これもまた粋な感じでした。

蓮池は、残念なことには歩行橋はありません。見頃は 7 月から 8 月ころです。この日(9 月 20 日)は池一面にピンクの花びらが浮かんでいて、

葉は水面にぴたりと吸い付いて、グリーンとピンクのコントラストが素晴らしかったです。この日は最高に暑い日でしたが、幻想的な湖面を見ることができました。



⑤ 日本一長いバラのトンネル

町誕生 50 周年記念事業として平成 18 年 1 月 22 日植樹が完成しました。その後 20 年度に 30 メートルの延長工事と 51 本の植樹を行い、総延長 330.5 メートルとなりました。品種はポリカ、まつり、ポニーコレッターなど 53 種類、427 本のつるバラで赤、白、黄、ピンク、オレンジなど多彩な表情で楽しませてくれます。また品種により花の咲く時期が異なり、長い期間鑑賞できます。さらに日本一長いトンネルとして 21 年 3 月 1 日に日本ワネットより認定証が交付され、町として自慢できる場所です。



日本一のバラ園（平成の森公園）

急式 米子 記

ご近所に咲く花🐝

以前に比べ、それぞれのお宅で庭先に植物を植え、きれいにしているのをよく見かけます。道路の端の方にも、カンナやコスモスが季節を知らせるように咲いています。



ここは、出丸中郷上分にある用水路です。近くにお住まいの斎藤さんが、ご近所からハスの根を二株分けて頂き、それを自宅前の用水路に植えたところ、今では数十株に増え広範囲でピンク色の花を咲かせるまでになりました。

花が終わった後の芯を利用して、宮内さんは創作の花を作りました。目打ちを使って、ハスの芯の部分に布に包んだ綿を詰めていきます。色の組み合わせによって、愛らしさや華やかさを出していきます。



ハスの実から、花を咲かせてみたいと思う方には、町のまち整備課が採取したハスの実を、町役場やコミセンの窓口で手にいられるそうです。何時になるかは、まち整備課に問い合わせてください。 🐝

花木 登茂子 記

川島町の農産物

～町で作られている米・野菜～

川島町は埼玉県のほぼ中央に位置し、四方を川に囲まれた町で、米の産地として栄えて来ました。田園風景の広がる静かで、のどかな自然が残る町です。しかしここ数年、町の開発が進み産業団地が実現しつつあり、田園都市としての産業と自然環境が調和した町に変わりつつあります。お米は川越藩のお蔵米（こしひかり）として有名です。「川島のお米はおいしい」との言葉を良く聞きます。私の家は農家ではありませんが、そんな言葉を聞くと直接たずさわってなくても何か嬉しくなってしまいます。

その他野菜としては、きゅうり、なす、とまと、ほうれんそう、小松菜等々一般の野菜が幅広く生産され、直売所に集荷されて、町民あるいは町外の人達の食を潤している。今夏は天候の不順により野菜が高騰し、びっくりしました。私たちは高い、安いで一喜一憂しますが生産者としては大変だろうと思います。



川島産の野菜をたっぷり使った郷土料理、夏は「すったて」冬は「呉汁」が川島町を代表するふるさとの味です。「すったて」は平成22年埼玉B級ご当地グルメ王選手権で優勝しました。

その他特産品としては県内屈指の「いちご」の産地であり、また近年は「いちじく」の栽培も盛んになり、それらの加工品の開発も行われています。

最近では農業を継ぐ後継者が不足しているようで高齢者が目立っています。これからも安心して食べられるものを作ってほしいものです。



山田 芳子 記